

ハイパフォーマンススポーツについて考える ための視点—東京 2020 大会に関わる 取り組みを通して—

勝田 隆*

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックという未曾有の状況において開催された 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」とする）における日本選手の活躍は、歴史に大きく刻むものであった。

ここでは、その日本選手団をトレーニングおよび医・科学・情報の面から支援した「ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）」の立場から、「ハイパフォーマンススポーツ」について考える際に、私が重要と考えている視点について言及したい。

●1. はじめに

最初に、HPSC の概要と 2020 東京大会における取り組みについて紹介する。

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）は、国立スポーツ科学センターとナショナルトレーニングセンターの機能を一体的に捉えた日本における国際競技力向上の中核拠点と位置づけられている¹⁾。

ここでは、トップアスリートがオリンピックやパラリンピック競技大会をはじめとする国際競技力向上に資する様々な取り組みを行なっている。具体的には、スポーツ科学・医学・情報に関する現場サポートや実践的研究、集中的にトレーニングを行うための環境の提供、アスリートの発掘・育成や女性アスリートの戦略的強化・支援などがあげられる。

一方、東京 2020 大会では、大会直前及び期間中、

HPSC を補完する施設として選手村近くに「村外サポート拠点」を 2 か所設置し、それぞれの立地や機能などの特徴を活かしサポートを展開した²⁾。

●2. ハイパフォーマンススポーツという言葉の捉え方と国内外の動向

(1) ハイパフォーマンススポーツという言葉の概念

そもそも「ハイパフォーマンススポーツ」とはどのような意味なのか。辞書によると performance という単語は、“per（貫き通す・徹底的に）”と“form（形（カタチ）”、そして“ance（行動・状態・性質）”という 3 つの意味を持つ語から組成されているという³⁾。

このような言葉の成り立ちから私は、ハイ・パフォーマンスについて「高いレベルで徹底的に形にすること（行動・行為）」と意識し、その際、「見える化」や「分かりやすさ」などが重要と考えている。

(2) 国内外の動向

文部科学省は、ハイパフォーマンススポーツについて「スポーツの卓越性（Performance Excellence）を目指すスポーツ活動」と定義している⁴⁾。

また、日本スポーツ振興センターは、HPSC の構築あたりハイパフォーマンスを、「世界最高峰の舞台において求められる競技力」と意味付けている⁵⁾。

諸外国について概観すると、たとえば、ニュージーランドでは、オリンピック及びパラリンピック大会におけるメダル獲得に関する責任組織として「High Performance Sport New Zealand」が設置

* 国立スポーツ科学センター

されている⁶⁾。

アジアに目を向けると、シンガポールの政府系スポーツ統括団体であるスポーツ・シンガポールにハイパフォーマンス部門が設置され、競技力向上の取り組みが行なわれている^{7,8)}。

この他、国内の大学などにおいてもハイパフォーマンスという言葉を用いたシステムや組織、取り組みなどが散見される⁹⁾。

以上のような国内外の動向から、ハイパフォーマンススポーツに関する活動には、次のような側面が類似的に見て取れる。

- ①競技性の高いアスリートの育成・強化に資する活動
- ②国際的な競技大会やリーグ等での成果に資する活動
- ③国または政府系機関、大学等公的あるいは組織との関連性

●3. ハイパフォーマンススポーツの推進について

以下、ハイパフォーマンススポーツの推進について考える際に、重要と思われる視点の幾つかを紹介する。

[視点1] パフォーマンスを発揮する「場」

競技スポーツにおいて、「試合：game, match, race」はその中核的な「場」として位置づけられるだろう。競技者は、この舞台（試合）での勝利やベストパフォーマンスの発揮を目指し研鑽を重ね、ここでの結果や内容から自己の課題や可能性など多くのことを学ぶ。もちろん、競技者に直接的に関わる者もその部外者ではない。さらに、オリンピックやパラリンピックのような大規模大会におけるパフォーマンスは、多くの人（みる者）の注目を集める。

このようなことから、私は、パフォーマンスを発揮する試合や大会といった場が「夢の舞台」として健全に存在することが、ハイパフォーマンススポーツの推進において極めて重要と捉えている。

[視点2] パフォーマンス向上に資する医・科学支援

ハイパフォーマンスの向上に、「科学の適切な活用」が不可欠であることは言うまでもないことであろう。その際、科学的という観点から私は「エビデンスベース（evidence-based：根拠に基づ

く）」を常に心がけることが重要と考えている。これは、取り組みのプロセスや結果を、「形（カタチ）」にし、「見える化」あるいは「分かりやすく」伝えることにも繋がる。

また、エビデンスベースに関しては、仮説や課題、基準などの設定が重要であり、個人的あるいは同質の集まりによる関心やニーズだけで検討するのではなく、現場や他分野の専門家の視点・意見などを適切に取り入れる工夫や仕組みづくりも重要と考えている。

いずれにしても、科学の適切な活用については、反証可能性や追試も含め、外部や他分野との接点を重視し、計画的かつ総合的にすすめることが推進の鍵となる。

[視点3] 結果とプロセス全体を視野に置いた関係団体の連携と協働

ハイパフォーマンススポーツは、社会の注目を集めその影響も他のスポーツ活動と比して大きい。したがって、その取り組みの推進にあたっては、公共性や公益性の視点を念頭におき、関係する組織が、密接に連携・協働していくことが不可欠と考える。

その際、特に、（取り組みの）プロセスや結果を、定期的、客観的かつ組織的な観点から分析・検証し、適切に公開するシステムを構築することが重要である。これは、特に、公的かつ組織的な支援を伴う取り組みにおいて不可欠な機能と位置づけられる。

いずれにしても、関係団体の連携と協働という仕組みは、その取り組みの継続性や発展性といった観点からも「推進の鍵」と私は捉えている。

●4. まとめにかえて

新型コロナウイルス感染症に加え、地球温暖化や海洋汚染、地域・教育・経済等の格差、そして人口減少、少子・高齢社会の問題など、私たちは今、さまざまな社会的課題に直面している。また、情報化やテクノロジーの急激な進化とも向き合っている。今後、これらの課題や変化は、スポーツはもとより人間の本質的な価値観や行動に大きな影響を与えるだろう。

このような時代において「未来」に良きバトンを繋ぐためには、国や立場、分野を越えた信頼と協力が不可欠であり、これからのスポーツを考えると、スポーツが、さまざまな社会課題の解

決にどのように資するのか，その視点を忘れてはならないと私は心に留めている。

国際舞台を中心に展開されるハイパフォーマンススポーツが，単なるメダル獲得の競い合いに終わる事無く，より良き社会の発展にさらに「役立つもの」となるようカタチにしていくことが，今後のHPSCの活動においても求められている。

文 献

- 1) HPSC ホームページ. 入手先：<https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/about/greeting/tabid/1103/Default.aspx> [参照日 2022年3月1日].
- 2) スポーツ庁ホームページ：日本代表選手団の活躍を後押しする「サポート拠点」. 入手先：<https://sports.go.jp/tag/competition/post-72.html> [参照日 2022年3月1日].
- 3) 研究社. Weblio 英和和英辞典. 入手先：<https://ejje.weblio.jp/content/performance> [参照日 2022年3月1日].
- 4) 文部科学省 (2015). 「トップアスリートにおける強化・研究活動拠点の在り方について」. 入手先：[tps://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/020_index/shiryo/_icsFiles/afldfile/2018/06/28/1406511_4.pdf](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/020_index/shiryo/_icsFiles/afldfile/2018/06/28/1406511_4.pdf) [参照日 2022年3月1日].
- 5) 日本スポーツ振興センター. ハイパフォーマンスセンター概要. 入手先：<https://www.jpnsport.go.jp/hpc/about/tabid/612/Default.aspx> [参照日 2018年11月20日].
- 6) New Zealand Government. Reshaping high performance sport. 入手先：<https://www.beehive.govt.nz/release/reshaping-high-performance-sport-0> [参照日 2018年11月20日].
- 7) Sport Singapore. High Performance Sports. 入手先：<https://www.sportsingapore.gov.sg/Athletes-Coaches/Singapore-Sports-Institute/High-Performance-Sports> [参照日 2018年11月20日].
- 8) 勝田 隆, 山下修平, 他. 「スポーツハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング」. 日本スポーツ協会公認コーチ養成テキスト. 2020.
- 9) 筑波大学体育系ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター, 日本体育大学ハイパフォーマンスセンター, 他.